

アジア歴史資料センターと大英図書館の試み

共同ウェブサイト

「描かれた日清戦争 ～錦絵・年画と公文書～」

の制作・公開における「課題」をめぐって

“The Sino-Japanese War of 1894-1895 : as seen in prints and archives”

– a joint project between the Japan Center for Asian Historical Records and the British Library

大英図書館 アジア・アフリカ研究部

日本資料司書 大塚 靖代

The British Library

Asian and African Studies

Japanese Studies Curator, **Yasuyo Ohtsuka**

国立公文書館 アジア歴史資料センター

研究員 平野 宗明

Japan Center for Asian Historical Records (JACAR)

of the National Archives of Japan

Researcher, **Muneaki Hirano**



0 アジア歴史資料センター・大英図書館共同ウェブサイト

描かれた日清戦争 ～錦絵・年画と公文書～

The Sino-Japanese War of 1894-1895 : as seen in prints and archives



大英図書館(BL)所蔵の日清戦争版画類コレクション全235点と、アジア歴史資料センター(アジ歴)の公開する日清戦争関係公文書とをあわせて紹介し、日清戦争という出来事を、当時の人々がどのように描いたのか、どのように記したのかをたどる、インターネット上のバーチャル展覧会(アジ歴ウェブサイト上のコンテンツとして公開)

2014年5月27日公開



イントロダクション

日清戦争とは

メインページ

トピック

ギャラリー

関連用語集



イントロダクション

この特別展のねらいや共同企画の経緯、アジア歴史資料センターからのメッセージをご紹介します。

日清戦争とは

日清戦争の背景や概要を、関連する公文書を読みながら文章でご説明します。

メインページ

日清戦争の展開をまとめた地図や年表から、それぞれの出来事に関する版画や公文書をご紹介します。

更新情報

14.05.27
NEW 「描かれた日清戦争～錦絵・年画と公文書～」のサイトをオープンしました。

トピック

題材や描かれ方に關するいくつかのテーマごとについて版画をご紹介します。

ギャラリー

大英図書館の日清戦争関係版画コレクションをご紹介します。デジタル・ギャラリーです。

関連用語集

この特別展で登場する主要な場所、人物、組織や制度などについての簡単な解説を行います。

参考文献表

YES
 NO
アンケート

ご利用にあたって

本ウェブサイト内で使用されている絵巻類の画像はすべて大英図書館から提供されています。また、これらの画像はパブリックドメインに属します。

イントロダクション

日清戦争とは
About the Sino-Japanese War of 1894-1895

メインページ

トピック

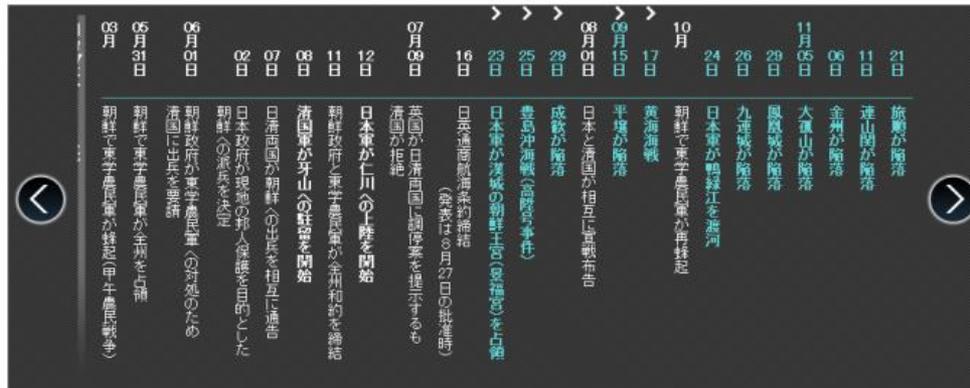
ギャラリー

関連用語集

ホーム > メインページ

日清戦争 地図と年表

※年表と地図の項目をクリックすると個別の詳細ページに移動します(>マークの項目(今後増えていく予定です)が開きます)



ホーム > メインページ > 明治27年(1894年) 9月17日 黄海海戦

明治27年(1894年) 9月17日

黄海海戦

資料画像のご利用については[こちら](#)をご覧ください

※うまく表示されない場合は、ブラウザの更新ボタンを押してください

【日本】「日清戦争大孤山沖日艦戦勝之図」

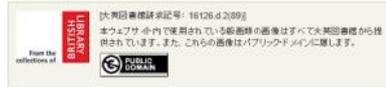


※画像をクリックすると拡大表示されます。

大英図書館請求記号: 16126 d.2(89)

タイトル: 【日本】「日清戦争大孤山沖日艦戦勝之図」

明治27年(1894年)9月17日、日本艦隊(連合艦隊)と清国艦隊(北洋水師)が黄海の大孤山沖(大孤山沖)と書かれることもあります)で遭遇し戦艦が起きました。この戦艦では日清双方で大きな損害を出しましたが、特に清国艦隊は失った艦船や乗組員の数が大きなものとなりました。ここでは、日本艦が清国艦を攻撃している様子が描かれています。



大英図書館請求記号: 16126 d.2(89)

本ウェブサイトで使用されている紙巻絵の画像はすべて大英図書館から提供されています。また、これらの画像はパブリックドメインに属します。



【中国】「鴨綠江帥水捷報」

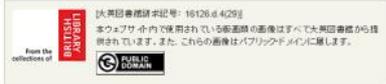


※画像をクリックすると拡大表示されます。

大英図書館請求記号: 16126 d.4(29)

タイトル: 【中国】「鴨綠江帥水捷報」

明治27年(1894年)9月17日、日本艦隊(連合艦隊)と清国艦隊(北洋水師)が黄海の大孤山沖(大孤山沖)と書かれることもあります)で遭遇し戦艦が起きました。この戦艦では日清双方で大きな損害を出しましたが、特に清国艦隊は失った艦船や乗組員の数が大きなものとなりました。ここでは、清国軍が日本艦隊に対して陸上から砲撃を行っている様子が描かれています(実際の黄海海戦では清国軍が日本艦隊に対して陸上から砲撃を行ったことはありません)。



大英図書館請求記号: 16126 d.4(29)

本ウェブサイトで使用されている紙巻絵の画像はすべて大英図書館から提供されています。また、これらの画像はパブリックドメインに属します。



関連公文書

レファレンスコード: C06061781100 件名: 9月19日 大阿江口にて伊東連合艦隊司令官から

明治27年(1894年)9月19日、黄海海戦の2日後、連合艦隊司令官の伊東祐亨海軍中将から本国の大本営に送った、この海戦の報告です。17日に日本艦隊が大孤山沖で清国艦隊に遭遇して戦艦となった経緯から、戦艦の様子や結果、日本艦隊の死者の数が伝えられています。



レファレンスコード: C08040481300 件名: 連合艦隊出征第1回報告

明治27年(1894年)9月21日に、連合艦隊司令官の伊東祐亨海軍中将から本国の大本営に送った、この海戦の経緯についての報告です。戦艦の経緯や結果がより詳細に伝えられています。また、海軍軍令部長の嶋山資紀海軍中将が視察のために搭乗し艦隊に加わっていた板垣退蔵「西京丸」の戦艦報告なども付随しています。



レファレンスコード: C06060137800 件名: 号外 27年10月6日 日清大海戦

黄海海戦について報じた上海の英字新聞「チャイナ・ガゼット」紙の明治27年(1894年)9月24日付の記事を転載したものです。戦艦前からの清国艦隊の状況が伝えられています。



ホーム > 大英図書館が所蔵する錦絵を題材にした展覧会 > ギャラリー

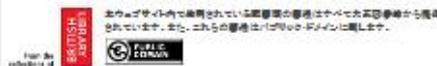
ギャラリー

1 2 3 4 5 6 7 8 戻る

資料画像のご利用についてはこちらをご覧ください

※画像をクリックすると拡大表示されます

※5枚(表示されない場合は、ブラウザの更新ボタンを押して ください)



大英図書館請求番号: 18126.d.1(1)

タイトル: 黄海之前会戦之水雷隊駆逐之序
 タイトル和訳:

錦絵: 小沢清規 (1847-1915)

出版元: 松本平吉

出版時期: 1894.11

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 黄海海戦

注記:

発行国: 日本

サイズ (cm): 74.5 x 39.9



大英図書館請求番号: 18126.d.1(2)

タイトル: 会軍平壌で陣取之図
 タイトル和訳:

錦絵: 道台生光 (7-7.3.1857-1894)

出版元: 松野全次郎

出版時期: 1894.10

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 平壌

注記:

発行国: 日本

サイズ (cm): 76.5 x 39.9



大英図書館請求番号: 18126.d.1(3)

タイトル: 成軍二於甲午海軍部会画大陣図
 タイトル和訳:

錦絵: 小沢清規 (1847-1915)

出版元: 松本平吉

出版時期: 1893.5

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 成軍

注記: 南18126.d.1(32)

発行国: 日本

サイズ (cm): 75.7 x 39.5



大英図書館請求番号: 18126.d.1(4)

タイトル: 全陸大和南山山岳会戦之図
 タイトル和訳:

錦絵: 道台生光 (7-7.3.1857-1894)

出版元: 黄山長八

出版時期: 1895.1

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 全洲

注記: 南18126.d.2(75)

発行国: 日本

サイズ (cm): 75.2 x 39.4



大英図書館請求番号: 18126.d.1(5)

タイトル: 会陸軍大阿江中流り海軍之本營中隊隊ス
 タイトル和訳:

錦絵: 道台生光 (7-7.3.1857-1894)

出版元: 清水忠三郎

出版時期: 1894.9

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 大阿江

注記:

発行国: 日本

サイズ (cm): 75.3 x 39.4



大英図書館請求番号: 18126.d.1(6)

タイトル: 平壌二於日本海軍隊取目
 タイトル和訳:

錦絵: 梅室小園松 (三井日新川図社) (7-1823以前)

出版元: 片岡長次郎

出版時期: 1894

大英博物館受入時期: 1895/08/11

内容: 平壌

注記:

発行国: 日本

サイズ (cm): 75.9 x 39.7

0 アジア歴史資料センター・大英図書館共同ウェブサイト

描かれた日清戦争 ～錦絵・年画と公文書～

The Sino-Japanese War of 1894-1895 : as seen in prints and archives



大英図書館(BL)所蔵の日清戦争版画類コレクション全235点と、アジア歴史資料センター(アジ歴)の公開する日清戦争関係公文書とをあわせて紹介し、日清戦争という出来事を、当時の人々がどのように描いたのか、どのように記したのかをたどる、インターネット上のバーチャル展覧会(アジ歴ウェブサイト上のコンテンツとして公開)

2014年5月27日公開

2014年9月10日第1回更新



1 共同企画の経緯

1. BLスタッフとアジ歴スタッフのEAJRSでの交流

2. BLからアジ歴への情報提供依頼、日清戦争関係版画類コレクションへの注目

- ⇒ 2012年11月、BLスタッフからアジ歴スタッフに対し、BL企画展示“Propaganda : Power and Persuasion”に日清戦争を描いた1枚の錦絵を展示するのを機に、全235枚の日清戦争関係版画類コレクションを整理し世に出したいが、何か良いアイデアはないか、との問い合わせ
- ⇒ アジ歴ではコレクションの存在に強い興味を示し、内容検証や書誌情報の採取について、出来る限り協力したい旨を返答、情報交換開始

3. BLスタッフのアジ歴訪問、意見交換、共同企画の発案

- ⇒ 2013年2月、BLスタッフがアジ歴訪問、同コレクションをBLでデジタル化した上で、アジ歴で活用できないかとの提案、アジ歴からは共同企画を発案
- ⇒ 2013年6月、BLスタッフがアジ歴再訪問、共同企画の構想(ウェブサイトの制作)について意見一致

1 共同企画の経緯

4. アジ歴スタッフのBL訪問、資料調査

⇒ 2013年9月、EAJRS後にアジ歴スタッフがBL訪問、デジタル画像の使用やウェブサイト運営についての協議及び資料調査を実施

5. アジ歴サイドでの組織的議論

⇒ 2013年10月～12月、アジ歴と国立公文書館にて、BLとの共同企画の実施について議論を行う中で提出された疑問点は、「日中関係が緊張感を帯びつつある現時点で、**日清戦争をテーマとするウェブサイト**をアジ歴が公開することは適切か？」

⇒ 2013年12月末までに、国立公文書館や関係機関との議論の結果、「**アジ歴本来の中立性**が保たれるのであれば問題はないだろう」との結論に達し、国立公文書館内で、アジ歴が日清戦争をテーマとするBLとの共同企画を実施することを決定

1 共同企画の経緯

6. ウェブサイトの制作・公開

- ⇒ 2014年1月～3月、BLとアジ歴の間で、共同企画にあたってのルール作り、これに基づく協定書の取り交わし
- ⇒ 2014年1月～3月、BLとアジ歴の間で、ウェブサイトの内容及び構成についての意見交換及び仕様検討
- ⇒ 2014年1月～3月、アジ歴にてウェブサイト制作業者の調達・制作、公開作業（～5月）
- ⇒ 2014年3月～5月、アジ歴にて日本語原稿作成、BLにて英語原稿作成
- ⇒ 2014年5月27日、アジ歴ウェブサイト上より日本語版・英語版同時公開

2 なぜ BL と アジ歴なのか？

アジ歴の考え方

アジ歴の海外における認知度向上及び利用促進をはかりたい

共同企画を通じて、BL日本資料部門が所蔵する豊富な日本語文献の利用者をはじめ、日本やアジア諸国に関心を寄せる世界中からのBL利用者に対し、新たにアジ歴の存在をアピールする機会を得たい(海外連携先機関としての強い魅力)

アジ歴の公開資料は文字資料が圧倒的に多く、ウェブコンテンツ制作においては常にビジュアル資料の獲得が大きな課題となるが、BLの版画類コレクションを用いることが出来れば、魅力的なウェブコンテンツを制作することができ、ユーザーの関心を引き付けることができるのではないか

2 なぜ BL と アジ歴なのか？

BLの考え方

共同企画を通じて、日清戦争関係版画類コレクションを発信することにより、同資料の存在に対するより広範な人々による認知をはかりたい、BL所蔵の日本関係資料自体に対する人々の関心を強めたい

版画類というビジュアル資料を歴史資料として世の中に示すためには、歴史的な公文書をデジタル公開するという事業内容や、これまでのウェブサイト制作・公開の実績を見れば、アジ歴がパートナーとして最適である

- ⇒ 過去(1994年)に展示会に一部を出品した際、全ての情報を英語のみで表記せざるを得ない環境であり、中立性を維持しながら提供することの難しさを経験(漢字を読解できる来館者からの誤解の危険性)
- ⇒ 歴史的資料(特に扱いの難しいもの)の公開についての専門的な知見を有する機関の協力が必要であるという認識
- ⇒ 資料のデジタル公開のノウハウを持つ機関の協力を得たい

2 なぜ BL と アジ歴 なのか？

BL と アジ歴 の 理念 の 共有

BL

図書館 (Library)

アジ歴

公文書館 (Archives)

人類の貴重な知的財産たる資料を多くの人々の利用に供する

資料をあるがままに公開する(分析や解釈を行うのが務めではない)

資料公開にあたっては政治的な意図を持たず中立性の維持に努める

根本理念の共有

日清戦争をテーマとすること

絵画資料と公文書とを同時に扱うこと

3 中立性をどのようにして維持するか？

BL所蔵日清戦争関係版画類コレクションの特徴

全235点、うち179点が日本で作成されたもの、56点が中国(清国)で作成されたもの(日本製と清国製のものが含まれている)

1点を除く全ての資料が、1895年4月から10月にかけて大英博物館がDulau & Company, Foreign and English Booksellers というロンドン市内の書店から購入したもの

いずれも日清戦争当時に作成されたものであり、
日清それぞれの立場に基づくプロパガンダの性質が極めて強い

3 中立性をどのようにして維持するか？

日清戦争を描いた錦絵や年画とはどういうものなのか

日本の錦絵

浮世絵の絵師たちが日清戦争を題材とした作品を制作し始める

後世における報道写真のような役割を果たす

清国の年画（庶民の間で広まっていた本来は旧正月を祝う飾り絵のこと）

清代末頃には戦争なども題材とされるようになる

日清戦争中に人々の間で戦記ものが広まる

【日本製の作品】



16126.d.1(3)

From the
collections of

LIBRARY
HSLIRB

JACAR

LIBRARY
HSLIRB

【日本製の作品】



16126.d.1(18)

From the
collections of

LIBRARY
HSLIRB

JACAR

LIBRARY
HSLIRB

3 中立性をどのようにして維持するか？

日本製の作品は・・・

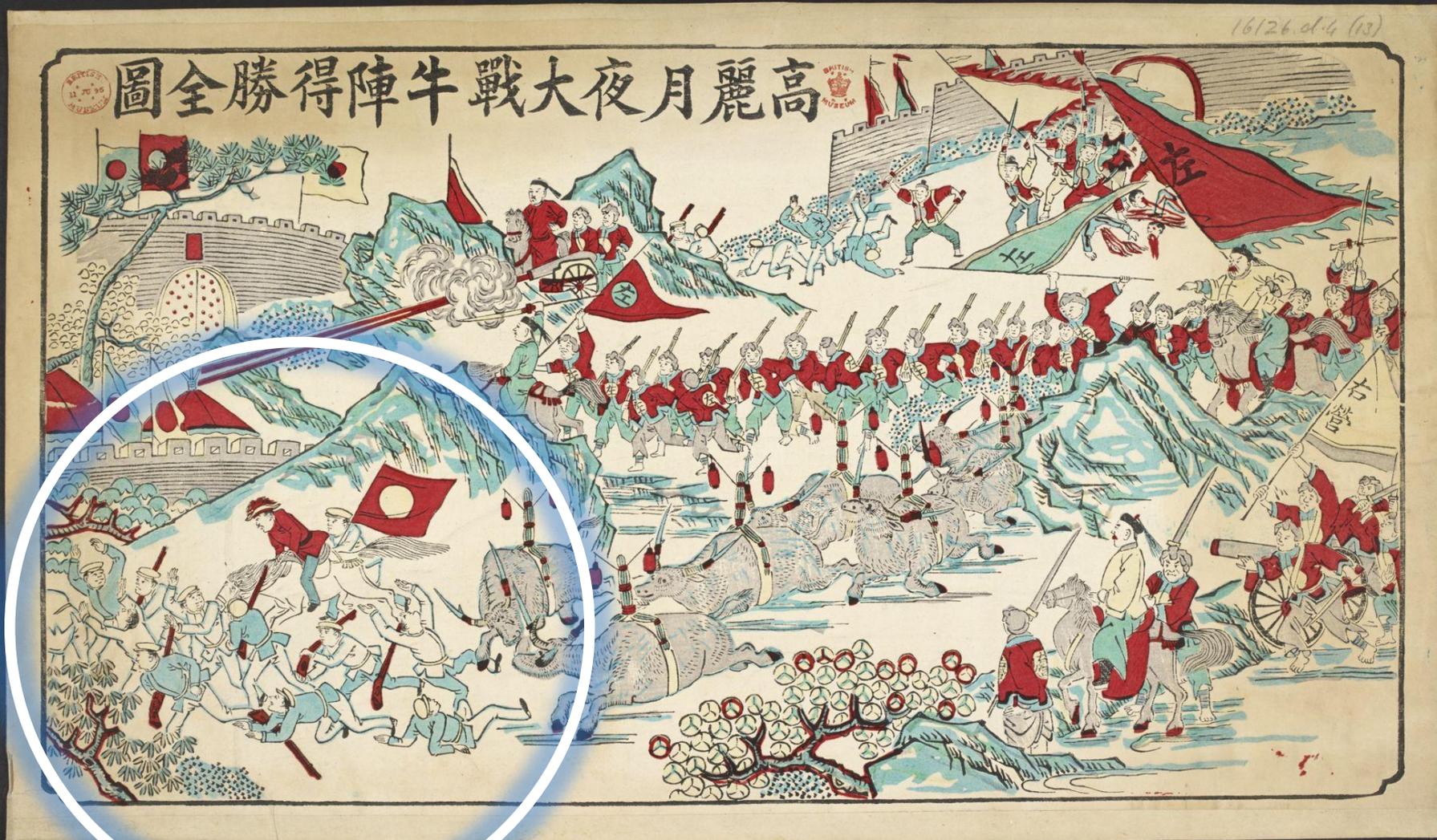
日本の将兵たちは強く勇ましく描かれ、逆に清国の人々は弱々しく描かれる傾向がある

絵師が実際にその現場で描いたのではなく、伝聞等を参考にして描かれたと思われる作品も多く見られる

清国の人々に対する侮辱的・侮蔑的な表現が記されているものもある

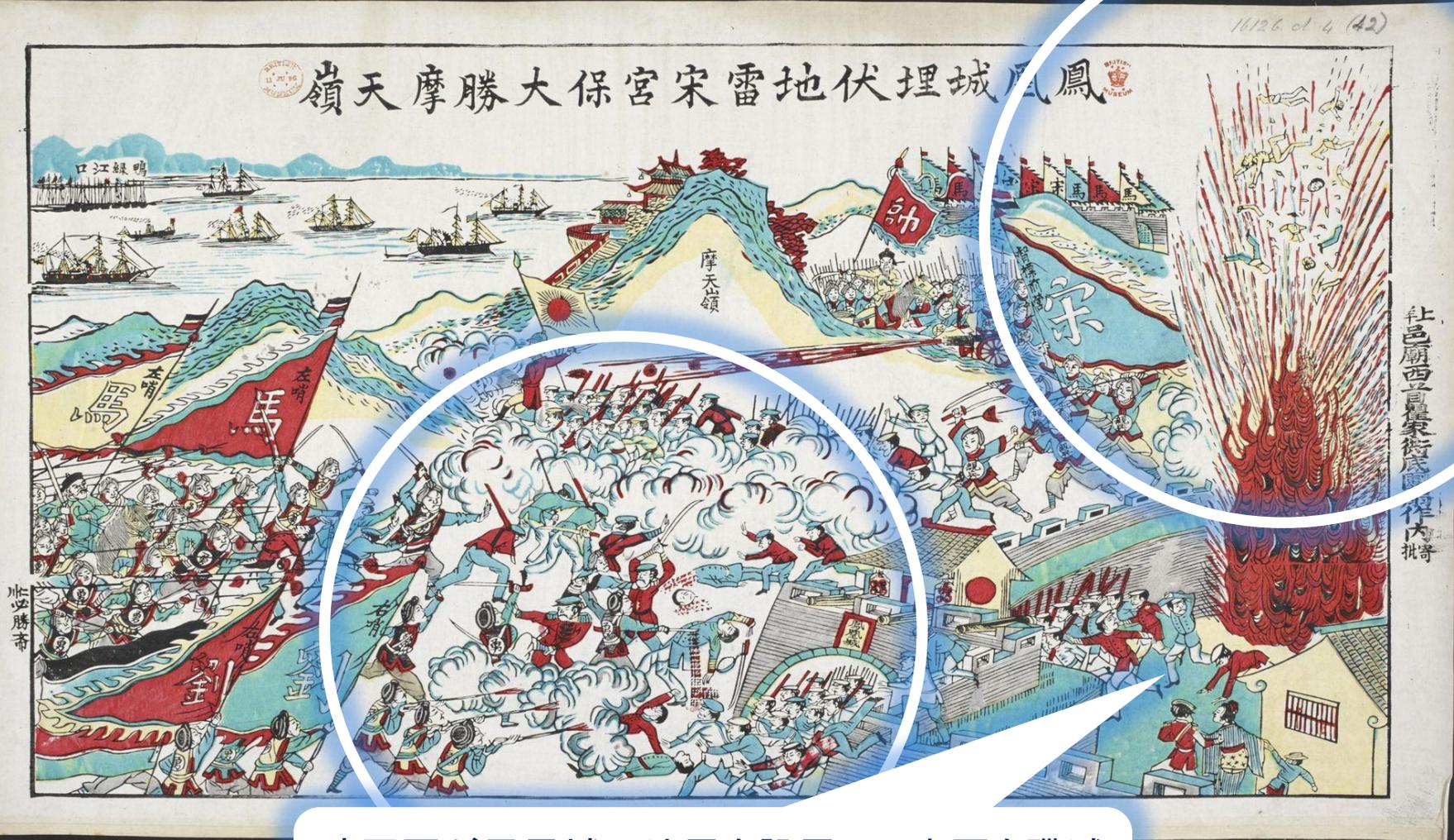
作品の持つプロパガンダ性・政治性が
ウェブサイトのスタンスとして
ユーザーに印象付けられる危険性はないか？

【清国製の作品】



16126.d.4 (13)

【清国製の作品】



清国軍が鳳凰城に地雷を設置し日本軍を殲滅している場面(確認されていない出来事)

16126.d.4(42)

3 中立性をどのようにして維持するか？

清国製の作品は・・・

清国の将兵たちは強く勇ましく描かれ、逆に日本の人々は弱々しく描かれる傾向がある

絵師が実際にその現場で描いたのではなく、伝聞等を参考にして描かれたと思われる作品も多く見られる

実際には起こり得なかったような場面(戦記?)が表されているものもある

清国製の作品の持つプロパガンダ性・政治性を
あわせて示すことによって
日清の視点を相対化できるのではないか？

3 中立性をどのようにして維持するか？

ウェブサイトのコンセプト

BLとアジア歴共に政治的な意図を持たず中立的である旨を明記する

同一の対象を描いた日本製作品と清国製作品の双方の画像を可能な限り並置して掲示する

画像には、作品に記された文章の翻刻や作品の内容解説を付さず、描かれている出来事の名称とその日時・場所を示すキャプションを添えるにとどめる

メイン・コンテンツの構成は、日清戦争の経緯に沿って、各戦闘等の出来事を描いた版画類を紹介しつつこれに関連する主な公文書をリストアップする、という簡潔なものとする

イントロダクション

日清戦争とは
About the Sino-Japanese War of 1894-1895

メインページ

トピック

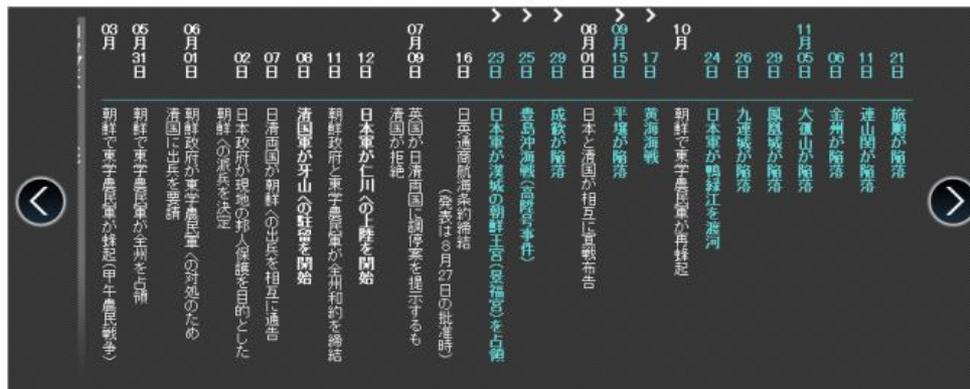
ギャラリー

関連用語集

ホーム > メインページ

日清戦争 地図と年表

※年表と地図の項目をクリックすると個別の詳細ページに移動します(>マークの項目(今後増えていく予定です)が開きます)



ホーム > メインページ > 明治27年(1894年) 9月17日 黄海海戦

明治27年(1894年) 9月17日

黄海海戦

資料画像のご利用については[こちら](#)をご覧ください

※うまく表示されない場合は、ブラウザの更新ボタンを押してください

【日本】「日清戦争大孤山沖日艦戦勝之図」



※画像をクリックすると拡大表示されます。

大英図書館請求記号: 16126 d.2(89)

タイトル: 【日本】「日清戦争大孤山沖日艦戦勝之図」

明治27年(1894年)9月17日、日本艦隊(連合艦隊)と清国艦隊(北洋水師)が黄海の大孤山沖(大孤山沖)と書かれることもあります)で遭遇し戦艦が起きました。この戦艦では日清双方で大きな損害を出しましたが、特に清国艦隊は失った艦船や乗組員の数が大きなものとなりました。ここでは、日本艦が清国艦を攻撃している様子が描かれています。

From the collections of **BRITISH LIBRARY**

大英図書館請求記号: 16126 d.2(89)
ウェブサイトで使用されている紙複製の画像はすべて大英図書館から提供されています。また、これらの画像はイブリックドメインに属します。

PUBLIC DOMAIN

【中国】「鴨綠江帥水捷報」



※画像をクリックすると拡大表示されます。

大英図書館請求記号: 16126 d.4(29)

タイトル: 【中国】「鴨綠江帥水捷報」

明治27年(1894年)9月17日、日本艦隊(連合艦隊)と清国艦隊(北洋水師)が黄海の大孤山沖(大孤山沖)と書かれることもあります)で遭遇し戦艦が起きました。この戦艦では日清双方で大きな損害を出しましたが、特に清国艦隊は失った艦船や乗組員の数が大きなものとなりました。ここでは、清国軍が日本艦隊に対して陸上から砲撃を行っている様子が描かれています(実際の黄海海戦では清国軍が日本艦隊に対して陸上から砲撃を行ったことはありません)。

From the collections of **BRITISH LIBRARY**

大英図書館請求記号: 16126 d.4(29)
ウェブサイトで使用されている紙複製の画像はすべて大英図書館から提供されています。また、これらの画像はイブリックドメインに属します。

PUBLIC DOMAIN

関連公文書

レファレンスコード: C06061781100 件名: 9月19日 大同江口にて伊東連合艦隊司令官から

明治27年(1894年)9月19日、黄海海戦の2日後に、連合艦隊司令官の伊東祐亨海軍中将から本国の大本営に送った、この海戦の報告です。17日に日本艦隊が大孤山沖で清国艦隊に遭遇して戦艦となった経緯から、戦艦の様子や結果、日本艦隊の死者の数が伝えられています。



レファレンスコード: C08040481300 件名: 連合艦隊出征第1回報告

明治27年(1894年)9月21日に、連合艦隊司令官の伊東祐亨海軍中将から本国の大本営に送った、この海戦の経緯についての報告です。戦艦の経緯や結果がより詳細に伝えられています。また、海軍軍令部長の嶋山資材海軍中将が視察のために搭乗し艦隊に加わっていた伝説的洋艦「西京丸」の戦艦報告なども付随しています。



レファレンスコード: C06060137800 件名: 号外 27年10月5日 日清大海戦

黄海海戦について報じた上海の英字新聞「チャイナ・ガゼット」紙の明治27年(1894年)9月24日付の記事を転載したものです。戦艦前からの清国艦隊の状況が伝えられています。



このインターネット特別展の制作・公開にあたっては、アジア歴史資料センター及び大英図書館は、次のように役割を分担しています。

【アジア歴史資料センター】

- ・日本語テキストの作成及び提供
- ・ウェブサイトの作成及び配信

【大英図書館】

- ・アジア歴から提供された日本語テキストに基づく英語テキストの作成及び提供
- ・所蔵する版画類のデジタル撮影及びリストその他関連情報の整理
- ・上記版画類のデジタル画像及びリストその他の関連情報の提供

このインターネット特別展でご紹介する、日清戦争時代に製作された版画類は、日本のものも清国のものも、戦争の様子を自国の人々に伝えるという、今日の報道写真のような役割を担っていました。そこでは、自国の将兵たちは強く勇ましく描かれ、逆に相手の国の人々は弱々しく小さく描かれる傾向も見られます。また、実際に現場を目撃して描かれたのではなく、伝聞に基づいて描かれたと思われる作品も多く見られます。中には、実際には起こり得なかったような場面が描かれているものもあります。このように、これらの作品には当時のプロパガンダとしての性質が強く表れていると言えるでしょう。

このインターネット特別展は、これらの版画類を当時の人々の見方や考え方を示す歴史資料としてあるがままに紹介するものであり、資料上に描かれ記されている表現について、アジア歴史資料センター及び大英図書館が支持や批判を表明するものではありません。また、お示しする解説文も、資料や出来事についての特定の解釈やイメージを提示しようとするものではありません。

▲ このページの先頭へ

▶ [ホーム](#) ▶ [イントロダクション](#) ▶ [日清戦争とは](#) ▶ [メインページ](#) ▶ [トピック](#) ▶ [ギャラリー](#) ▶ [関連用語集](#) ▶ [参考文献表](#) ▶ [アンケート](#) ▶ [ご利用にあたって](#)

4 書誌情報の整理と表記法

版画類コレクションの書誌情報整理（基礎となる作業）

BLにて採取・整理していた基礎的な書誌情報を基に、情報を付加し、可能な限り充実した書誌情報を整えることを目指した



課題：版画の題名を読み取ることができるか？（文字の判読、読み方）

課題：作者名を特定することができるか？（文字の判読、人物特定）

課題：情報をどのように英語で表記するか？（タイトル英訳とローマ字化）

4 書誌情報の整理と表記法

書誌情報の英語表記の問題：英訳 (Translation) とローマ字化 (Romanisation)

例えば、清国の地名の英語表記の指針は・・・

現在の中国(大陸)内の地名：漢語ピンインによる表記

現在の台湾内の地名：ウェード式による表記

例えば、朝鮮の地名の英語表記の指針は・・・

現在の韓国内の地名：文化観光部2000年式による表記

現在の北朝鮮内の地名：マッキューン=ライシャワー式による表記

4 書誌情報の整理と表記法

書誌情報の英語表記の問題 : 英訳 (Translation) とローマ字化 (Romanisation)

例① : 「平壤」の場合

マッキューン＝ライシャワー式による表記

P'yŏngyang

英訳では **Pyongyang** と表記する

当時の日本語表記における読み

へいじょう

ローマ字化(日本製作品)では **Heijō** と表記する

4 書誌情報の整理と表記法

書誌情報の英語表記の問題 : 英訳 (Translation) とローマ字化 (Romanisation)

例② : 「旅順」の場合



4 書誌情報の整理と表記法

書誌情報の英語表記の問題：英訳 (Translation) とローマ字化 (Romanisation)

著名な出来事の名称の英語表記 例：「黄海海戦」の場合

英語圏における慣用的な表記①	Battle of the Yellow Sea
英語圏における慣用的な表記②	Battle of the Yalu River
英語圏における慣用的な表記③	Battle of Haiyang Island
英語圏における慣用的な表記④	Battle of Dadonggou
英訳では Battle of the Yalu River と表記する(日露戦争との区別)	

5 今後の展望

ウェブサイトの更新(内容拡充)～完成

第1回更新:9月10日実施(背景説明・トピック・用語集公開、メイン解説追加)

第2回更新:10月実施予定(背景説明・メイン解説・トピック・用語集追加)

第3回更新:11月実施予定(背景説明・メイン解説・用語集追加、トピック完成)

第4回更新:12月実施予定(背景説明・メイン解説・用語集完成)



ウェブサイトの完成へ

5 今後の展望

機関間連携・共同企画の持つ可能性

1つの機関だけでは、自らの持つ資源(資料・情報・人材・予算)の限界を超えた成果、自らの所蔵資料(コレクション)の持つ枠組みを超えた成果を世に出すことが難しいことも多い



異なる機関が資源や知見を持ち寄ることによって新しい可能性が開ける

⇒ BLとアジ歴の今回の共同企画も、両機関の資源と知見を併せたことによって、結果として、〈図書館と文書館〉〈絵画資料と公文書〉という組み合わせを実現する試みとなった(デジタル・アーカイブの新たな可能性)

ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention.

大英図書館 アジア・アフリカ研究部
日本資料司書 大塚 靖代

The British Library

Asian and African Studies

Japanese Studies Curator, **Yasuyo Ohtsuka**

国立公文書館 アジア歴史資料センター
研究員 平野 宗明

Japan Center for Asian Historical Records (JACAR)

of the National Archives of Japan

Researcher, **Muneaki Hirano**

